

令和 6 年度

鍼灸学研究科

修士課程 鍼灸学専攻

授 業 計 画

(シラバス)

明治国際医療大学大学院

令和6年度 大学院 修士課程 鍼灸学専攻 教育課程

科目区分	授 業 科 目	配 当 年 次	単 位 数	分 野				時 間 数	備 考
				伝 統 鍼 灸 学	鍼 灸 基 礎 医 学	鍼 灸 臨 床 医 学	健 康 予 防 鍼 灸 学		
				必 修	必 修	必 修	必 修		
基 盤 科 目	統合医療学特論	1	1	1	1	1	1	15	
	研究計画法特論	1	2	2	2	2	2	30	
	医療英語講読特論	1	1	1	1	1	1	15	
	データ解析学特論	1	2	2	2	2	2	30	
	英語プレゼンテーション学特論	1	1	1	1	1	1	15	
専 門 科 目	基礎鍼灸医学	1	4	4	4	4	4	60	
	臨床鍼灸医学	1	3	3	3	3	3	45	
	教育学概論	1	1	1	1	1	1	15	
	鍼灸医学特論	1	1	1	1	1	1	15	
	伝統鍼灸学研究法	1	2	2				30	2 単位以上必修
	鍼灸基礎医学研究法	1	2		2			30	
	鍼灸臨床医学研究法	1	2			2		30	
	健康予防医学研究法	1	2				2	30	
	伝統鍼灸学演習	1・2	4	4				120	4 単位以上必修
	鍼灸基礎医学演習	1・2	4		4			120	
	鍼灸臨床医学演習	1・2	4			4		120	
	健康予防医学演習	1・2	4				4	120	
	特別研究Ⅰ	1・2	1	1	1	1	1	30	
	特別研究Ⅱ	1・2	5	5	5	5	5	150	
	特別研究Ⅲ	1・2	2	2	2	2	2	60	
	医療機関実習	1・2	4					120	自由科目

修了に必要な単位数は、必修科目 24 単位ならびに研究法 2 単位以上、演習 4 単位以上を選択必修し、合計 30 単位以上とする。

目 次

基盤科目

1. 統合医療学特論	1
2. 研究計画法特論	3
3. 医療英語講読特論	5
4. データ解析学特論	7
5. 英語プレゼンテーション学特論	10

専門科目

1. 基礎鍼灸医学	12
2. 臨床鍼灸医学	18
3. 教育学概論	24
5. 鍼灸医学特論	26
6. 伝統鍼灸学研究法	28
7. 鍼灸基礎医学研究法	29
8. 鍼灸臨床医学研究法	30
9. 健康予防医学研究法	31
10. 伝統鍼灸学演習	32
11. 鍼灸基礎医学演習	33
12. 鍼灸臨床医学演習	34
13. 健康予防医学演習	35
14. 特別研究Ⅰ	36
15. 特別研究Ⅱ	37
16. 特別研究Ⅲ	38
17. 医療機関実習	40

■ 基盤科目

授 業 科 目 名	統合医療学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 伊藤和憲					
テ ー マ						
授 業 の 概 要	医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と西洋医学、⑤統合医療と東洋医学、⑥統合医療とCAM、⑦統合医療と高齢者、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	1. 統合医療とは何かを理解する 2. 統合医療の治療法について概要を理解する 3. 未病や養生の概念について理解する					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 統合医療の歴史的背景 [到達目標] 統合医療がなぜ生まれたのかの歴史的背景が理解できる			特になし		
2	[授業概要] 統合医療の必要性 [到達目標] 現代の医療のなかで何故統合医療が必要となったのかが理解できる			特になし		
3	[授業概要] 日本における統合医療の現状 [到達目標] 日本の中で統合医療はどのように用いられているのかが理解できる			特になし		
4	[授業概要] 統合医療の実際 [到達目標] 様々な統合医療の利点や適応疾患などの概要が理解できる			特になし		
5	[授業概要] 統合医療の実践 [到達目標] 本学での統合医療の取り組みやその意味が理解できる			特になし		
6	[授業概要] 統合医療と今後の医療 [到達目標] 統合医療の次に必要な健康観を理解できる			特になし		

7	[授業概要] これからの統合医療 1 [到達目標] 医療のパラダイムシフトと未病の考え方が理解できる	特になし
8	[授業概要] これからの統合医療 2 [到達目標] 地域のつながりと予防	特になし
テキスト（配付資料）		配布資料
参 考 文 献		統合医療（金房堂） 今日から始める養生学（集英社インターナショナル）
評 価 方 法		レポート課題と出席による
その他（アドバイス等）		

授 業 科 目 名	研究計画法特論					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 渡邊康晴					
テ ー マ	学会発表、論文作成ができる研究計画を作る					
授 業 の 概 要	研究とは、現象やメカニズムなどが明らかにされていない事象に対して、研究計画を立て、実験・調査を行い、得られたデータを解析し結論を得た上で、社会に対して結果を発表するまでの一連の過程である。研究を成功させるためには、リサーチクエスチョンを立て、緻密な研究計画を立てる必要があり、そのためには、過去の多くの先行研究の知識、研究・調査方法に関する知識、データ解析法などを学修しなければならない。 本科目では、研究を行うために必要な一連の事柄を理解した上で、仮想のテーマによって研究計画を立てる、研究倫理を考慮するなどの演習を通して研究を行う上で基本的な知識を修得する。					
授 業 目 標 ・ 視 点 (ね ら い)	1. 自身の研究計画を立てることをゴールとする 2. 研究に必要な一連の事柄を理解する 3. 様々な研究手法があることを理解する					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要] 実験研究の流れ [到達目標] 実験研究に関する流れが説明できる			実験研究の事例を参照しつつ、自身の研究の大まかな流れを作成する		
2	[授業概要] 研究倫理を知る [到達目標] 研究遂行に際し、必要な倫理・配慮について説明できる			研究倫理の web 教育をもって準用するので、必ず受講すること		
3	[授業概要] 文献を調べる [到達目標] 自身の研究に必要な国内外の文献を集めることができる			自身の研究において、背景、方法、等で参考となる論文を集める		
4	[授業概要] 研究課題を作る [到達目標] 帰納的推論と演繹的推論の違いが説明でき、仮説形成が行える			自身の研究領域において、検証可能な仮説を作ること		
5	[授業概要] 実験デザインに必要な統計の基本 [到達目標] 実験研究をデザインする上で必須の統計が理解できる			前講で作成した仮説に対し、必要な統計について調べること		
6	[授業概要] 基礎研究の実験デザイン [到達目標] アウトカムの設定とコントロール設置の必要性が理解できる			実験研究の論文を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる		

7	[授業概要] 臨床研究の実験デザイン [到達目標] 臨床研究の実験デザインの種類とエビデンスのレベルが分かる	臨床研究の論文（症例報告・症例集積も可）を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる
8	[授業概要] 調査研究の実験デザイン [到達目標] アンケート調査の実験デザインがわかる	調査・質的研究の論文を読み、どのような方法を用いているのかをまとめる
9	[授業概要] 質的研究の実験デザイン [到達目標] 質的研究の種類や方法が理解できる	
10	[授業概要] 学会に発表しよう [到達目標] 学会での発表形式を説明でき、質疑応答の必要性を理解できる	自身の研究デザインで学会発表を行うと仮定し、目的と方法のスライドを作成する
11	[授業概要] 研究結果を論文にしよう [到達目標] 研究結果の制限（限界）について論じることができる	自身の研究デザインの制限について検証し、文章でまとめる
12	[授業概要] 査読について [到達目標] 査読と批判的思考の必要性について説明できる	論文を1編えらび、自身が査読者になったと仮定して、批判的に精読し、問題点を指摘する
13	[授業概要] 研究プロトコルの作成 [到達目標] 興味のある分野について、研究プロトコルを作成できる	研究プロトコルを作成した上で、予想される結果、その結果の解釈の概略をまとめる
14	[授業概要] まとめ [到達目標] 自身が行いたい研究テーマで実験計画を立案できる	立案した実験計画を遂行する際の課題点とその対策についてまとめる
15	[授業概要] [到達目標]	
テキスト（配付資料）		配布資料
参 考 文 献		授業時に適宜、指示する。
評 価 方 法		授業時間外学習で示した課題の取り組み状況と出席状況によって評価する。
その他（アドバイス等）		授業では一般的な研究計画の方法について講義する。大学院担当の教員は優れた研究者であり、個々に十分な研究経験を有することが多い。これらの教員の研究経験を積極的に聴取すると、研究デザインの幅を広げる助けとなる。

授 業 科 目 名	医療英語講読特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 林 知也					
テ ー マ	英語論文を正確に読める能力を身につける。					
授 業 の 概 要	研究を行うためには先行研究の多くの論文を読み、理解しなくてはならない。よほどの狭い分野でない限り、研究で得られた知識は日本だけでなく、世界共通となるため、論文は基本的には英文が主体となる。すなわち英語論文が読めなくては研究ができない。英語論文は専門用語が多用され、かつ共通したマナーがあるため、それらマナーを理解しなくてはならない。本科目では、英語論文を読み書きするための基本的能力を実際の論文を用いて理解し、学修する。					
授 業 目 標 ・ 視点 (ねらい)	専門用語は、院生の研究テーマによって若干の違いがあるため、それらの単語を覚えさせることに主眼を置くのではなく、論文共通のマナーを理解させることを主眼とする。					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考 (授業時間外学習の指示等)		
1	[授業概要] 英語論文の概要について [到達目標] Abstract, Introduction, Methods (Materials & Methods), Results, Discussion, Reference, Figures & Tables の意味, 役割を理解する。			Pubmed などの検索データベースを使って英語論文の検索ができるようにする。		
2	[授業概要] 1 つ目の論文の Abstract, Introduction について [到達目標] Abstract, Introduction の役割を理解した上で、内容を理解する。			1 つ目の論文の Abstract, Introduction を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。		
3	[授業概要] 1 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables について [到達目標] Method, Results, Figures & Tables の役割を理解した上で内容を理解する。			1 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。		
4	[授業概要] 1 つ目の論文の Discussion について [到達目標] Discussion の役割を理解した上で、内容を理解する。			1 つ目の論文の Discussion を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。		
5	[授業概要] 2 つ目の論文の Abstract, Introduction について			2 つ目の論文の Abstract, Introduction を事前に読み、専門		

	[到達目標] Abstract, Introduction の役割を理解した上で、内容を理解する。	用語などの分からない単語を十分に調べておく。
6	[授業概要] 2 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables について [到達目標] Method, Results, Figures & Tables の役割を理解した上で内容を理解する。	2 つ目の論文の Method, Results, Figures & Tables を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
7	[授業概要] 2 つ目の論文の Discussion について [到達目標] Discussion の役割を理解した上で、内容を理解する。	2 つ目の論文の Discussion を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
8	[授業概要] 3 つ目の論文としての short communication について [到達目標] original article との違いを理解した上で、内容を理解する。	3 つ目の論文としての short communication を事前に読み、専門用語などの分からない単語を十分に調べておく。
テキスト（配付資料）	4 つの英語論文を配布する。	
参 考 文 献	・ 一般的な英日辞書 ・ 医学専門用語の英日辞書 ・ 医学の専門用語が十分に掲載されている英語の電子辞書など	
評 価 方 法	4 つ目の英語論文の内容理解についてレポートにて評価する。	
その他（アドバイス等）	事前に英語論文の検索方法を学んでおくこと。	

授 業 科 目 名		データ解析学特論					
単 位 数 等		単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年後期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)		◎ 渡邊康晴、梅田雅宏、酒井晃二、河合裕子、星野明子					
テ ー マ		研究データの示し方や取り扱いを学修する					
授 業 の 概 要		研究によって得られたデータの整理の仕方、PC への入力の仕方及びそれらの解析方法の基本を学修する。本科目では、基本統計学を基礎として、多くの統計手法について各々の特徴を理解し、目的に応じた統計処理ができるように学修する。また医療の領域で用いられる質的研究方法（GTA、エスノグラフィ等）のデータ収集及び解析方法についても教授する。前半は表計算ソフトの復習と統計手法及び質的研究手法の説明を行い、後半は実データを用いた統計分析、質的分析を実践する。 （共同・オムニバス方式／全15回） （梅田雅宏・梅田雅宏・河合裕子／10回）（共同） Excel を中心とした研究データの整理とデータの提示、統計解析法の基礎事項について教授する。 （酒井晃二／2回）測定と誤差の理解、G*Power を利用したサンプル数の決定 （星野明子／3回） 保健医療の領域における質的研究法、データ解析方法等について教授する。					
授 業 目 標 ・ 視点（ねらい）		1. 計測された数値データや文書データの扱い方について学習する 2. コンピュータを用いてデータを適切に処理・整理する 3. データの見方、客観的な判断方法の統計手法の選択を学習する					
日程	概 要				備考（授業時間外学習の指示等）		
1 （河合）	[授業概要] excel や spreadsheet など表計算ソフトの使い方 1(基礎編) [到達目標] 表計算ソフトの基本的な利用法からグラフ作成、関数利用などが行えるようにする。				Excel の稼働を確認して各自準備しておくこと。Excel が正常に動作しない場合(編集権限がないなど)は ICT に連絡を取りアカウントなどの確認を済ませておくこと。 Excel の入力や関数利用などの基本項目は各自自習して講義に臨むこと。		
2 （河合）	[授業概要] 表計算ソフトの使い方 2(応用編) [到達目標] 表計算ソフトを使ってデータを様々な解析する発展的利用法まで行えるようにする。				解析したいデータなどを各自見つけておくこと。		
3 （河合）	[授業概要] 表計算ソフトの使い方 3(応用編)および統計の基本的な考え方について理解する。				2 の復習を各自参考書で行って置く。		

	[到達目標] 少し大きなデータを表計算ソフトで扱うときの工夫や注意などを理解し、わかりやすいデータのまとめ方ができるようにする。統計手法が選択できる。	
4 (梅田)	[授業概要] Excel での t 検定を行う方法について復習する。各自の PC に無料で公開されている画像解析ソフト ImageJ をインストールし、MRI データをダウンロードして準備する。また運動による MRI 画像コントラスト変化について理解する。 [到達目標] ImageJ を各自 PC にインストールして T_2^* 計算が実行でき、Excel などの表計算ソフトを用いて検定ができ、MRI 特徴料の変化から生体の変化を読み解くことができる。計測データ、統計処理、結果の解釈などを課題レポートして提出する(成績評価対象)。	HP を見て各自、Excel での t 検定とその復習を行い、各自の PC に ImageJ をインストールしてその使い方を自習しておく。
5 (梅田)	[授業概要] ImageJ と骨格筋 MRI のサンプルデータから ImageJ を用いて T_2^* 計算画像を作成し、運動前と運動後の関心領域の T_2^* の差を検定する。 [到達目標] ImageJ を各自 PC にインストールして T_2^* 計算が実行でき、Excel などの表計算ソフトを用いて検定ができる。	HP を見て各自 PC に ImageJ をインストールしてその使い方を自習しておく。
6 (梅田)	[授業概要] ノンパラメトリック検定の例として Willcoxon の順位和検定を取り上げる。表計算ソフトの練習を兼ねて、Willcoxon の順位和検定を Excel にて行う。 [到達目標] Willcoxon 検定の作業の仕組みを理解し、Excel の操作を学習する。	HP に掲載された Willcoxon 検定作業方法を理解しておく。
7 (梅田)	[授業概要] ウェアラブルデバイスを利用した生体情報収集の仕組みおよび生体情報センサーについて解説する。 [到達目標] 生体情報収集の仕組みと問題点を理解する。	HP に掲載されているウェアラブルデバイスに情報収集について予習しておく。
8 (酒井)	[授業概要] データ集計の基本及び仮説検定の考え方 1 [到達目標] 簡単なデータ集計を行えるようにする。また、仮説検定の原理を理解し、仮説をたてられるようにする。	
9 (酒井)	[授業概要] Excel を用いて集計したデータを検定する	G*Power 3.1.9.2 の予習 http://www.psychologie.hhu.de/

	[到達目標] PC を用いて収集したデータを検定おこない、データ収集を検定することの意味を理解する。	内容を確認すること。 統計検定力について調査すること。
1 0 (渡邊)	[授業概要] クロス集計表を用いた統計 [到達目標] クロス集計表を活用し、度数を用いた統計が行え、感度と特異度の違いが理解できる。	
1 1 (渡邊)	[授業概要] 3 群以上の統計 1 [到達目標] 1 元配置分散分析が実施でき、その結果を解釈できる。	
1 2 (渡邊)	[授業概要] 3 群以上の統計 2 [到達目標] 2 元配置分散分析が実施でき、その結果を解釈できる。	
1 3 (星野)	[授業概要] 質的研究の問い、主なデータ収集方法について学修します。 [到達目標] 質的研究の特徴を理解できる。	参考文献等を参考にして、質的研究と量的研究について整理しましょう。
1 4 (星野)	[授業概要] 質的研究のデータ分析方法と具体的展開について学修します。 [到達目標] 質的研究の主なデータ収集と分析等について理解できる。	授業後に質的研究手法を使用した論文を読み、データ収集方法について確認してみましょう。
1 5 (星野)	[授業概要] 質的研究方法を用いた論文を紹介し、クリティークします。 [到達目標] 質的研究手法に適した研究の問いと研究プロセスを考えることができる。	興味のある質的研究論文を読んでクリティークしてみましょう。
テキスト（配付資料）	特にテキストは指定しないが、統計の基本的な図書を各自準備し一通り読んでおくこと。	
参 考 文 献	なし。	
評 価 方 法	1) ImageJ による MRI サンプルデータを ImageJ で処理し、緩和時間変化を excel でまとめて t 検定を行い、結果から読み取れる生体の変化について総合的な研究レポートを提出する。 2) 各自の計画している研究計画(何をどのように調べるか、計測方法などを含めて)と、その中で利用する統計手法、手法を選択した理由をまとめる。指導教官と研究打ち合わせが済んでいない方、実験研究を行わない方は仮想的な実験についてこれらを記載したレポートを提出する。	
その他（アドバイス等）	参考 URL: 数理統計研究所 https://www.ism.ac.jp/ 明治国際医療大学・医療情報 : http://www.meiji-u.ac.jp/md-medinfo/lecture/medinfo_intro	

授 業 科 目 名	英語プレゼンテーション学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者 (◎は単位認定者)	◎ 鶴 浩幸					
テ ー マ	日本語・英語によるプレゼンテーション方法の習得					
授 業 の 概 要	日本語及び英語を用いた、学術的なスライド作成の方法（アカデミックなスライド作成の基礎）、口頭発表の方法、そして、質疑応答の方法など、プレゼンテーションに必要とされる学術的技術の基礎を学修していく。 講義前半では、日本語によるプレゼンテーション法を学ぶことを通じて、プレゼンテーション能力の基礎を身につけ、後半では、英語によるプレゼンテーションの構成、表現法について学んでいく。また、ここでは、国際学会へ参加する際に必要となる心得などについても理解を深めていく。					
授 業 目 標 ・ 視点（ねらい）	1. プレゼンテーションとは何かを知る 2. 日本語によるプレゼンテーション法を習得する 3. 英語によるプレゼンテーション法を習得する					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要]プレゼンテーションとは・本講義のスケジュールと講義内容 [到達目標] プレゼンテーション一般の理解・今後の授業計画説明			自らの研究内容を再確認し、プレゼンテーション作成に備える		
2	[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを考える [到達目標] 日本語でプレゼンテーションの構造について理解を深める			自らの関心に引きつけてプレゼンテーションの構成についてイメージを膨らませる		
3	[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを構成する [到達目標] 日本語でプレゼンテーションのシナリオを作成する			プレゼンテーションのためのスライドを作成する		
4	[授業概要] 日本語でプレゼンテーションを行う [到達目標] 日本語によるプレゼンテーションと質疑応答を実践する			人前で自分の考え・意見を表現する方法を学ぶ		
5	[授業概要]英語プレゼンテーション法Ⅰ [到達目標] 英語のプレゼンテーション表現を学ぶ（前編）			日本語で構成したプレゼンテーションを英語で表現するためのノウハウを学ぶ		

6	[授業概要] 英語プレゼンテーション法 II [到達目標] 英語のプレゼンテーション表現を学ぶ（後編）	日本語で構成したプレゼンテーションを英語で表現するためのノウハウを学ぶ
7	[授業概要] 英語でのプレゼンテーションを構成する [到達目標] 英語によるプレゼンテーションのシナリオを作成する	プレゼンテーションのためのスライドを英語で作成する
8	[授業概要] まとめ [到達目標] これまでの授業内容を再確認し、今後の課題を検討する	これまでの授業を省み、日本語／英語によるプレゼンテーションの構成を再考する
テキスト（配付資料）		添付資料
参 考 文 献		
評 価 方 法		授業への出席や授業に取り組む態度、毎週の課題の提出などによって総合的に評価する。
その他（アドバイス等）		授業内容や課題に取り組む際に質問や意見がある場合は、メールを通じて教員まで連絡するようにしてください。 h_tsuru@meiji-u.ac.jp

■ 専門科目

授 業 科 目 名	基礎鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	◎和辻 直 榎原智美、林 知也、川喜田健司、 糸井マナミ、千葉章大、廣 正基、鶴 浩幸、角谷英治					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、鍼灸医学と関連が深いと考えられる基礎医学的分野および鍼灸医学の伝統的基礎理論分野の各領域における最新の知見について学習し、基礎鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸医学に関連する形態学(特に鍼灸臨床と関係の深い体表解剖及び皮膚の形態)、機能学(特に鍼灸刺激で生じるさまざまな生体现象を理解する基礎となる生体の調節機構)、免疫学(特に免疫系・生体防御系)について教授する。また、鍼灸医学の根底を成す古医書及び鍼灸医学の基礎理論となる経絡経穴学・診察法(四診法)等についてより専門的に教授する。 【形態学領域】 (榎原智美／8 回) 皮膚の形態と皮膚感覚受容を担う神経形態について教授する。鍼灸刺激の対象である皮膚、鍼灸治療の触診のための感覚受容部としての皮膚を、形態学的に複雑系として把握するための形態学的基盤と、そこに分布する神経形態について教授する。また、解剖学研究室において、神経組織形態研究法の一部を実習する。 【機能学領域】 (川喜田健司／4 回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。動物機能において特に体性神経系機能などを教授する。 (林 知也／4 回) 体表刺激の視点から、生体機能調節系について教授する。植物機能において、特に循環・消化・代謝などについて教授する。 【免疫学領域】 (千葉章太／4 回) 生体の維持・生体防御における血管・リンパ管・血管系を介する細胞移動、細胞へのシグナル伝達の分子基盤を教授する。 (糸井マナミ／4 回) 免疫系の成り立ち、免疫応答、免疫応答の関わる疾患および免疫系の器官形成と制御についての分子基盤を教授する。 【基礎鍼灸学領域】 (角谷英治／2 回) 鍼灸医学の基礎理論について、現代西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として現代西洋医学の観点でとらえた経絡、ツボについて教授する。 (鶴 浩幸／1 回) 鍼灸臨床における医療過誤(事故)、副作用、インシデント(ヒヤリハット)などについて教授する。予防策などについて教授する。					

	(廣 正基／3 回) 東洋医学的な基本的な整体 (生体) 観と疾病の関わり、疾病について理解するとともに、根幹を成す臓腑・経絡との関連について教授する。 (和辻 直／2 回) 鍼灸医学の基礎理論について、現代西洋医学と東洋医学の観点から教授する。主として東洋医学の診察法、特に舌診について教授する。	
視 点 (ねらい)	【形態学領域】 1. 皮膚の形態学的基礎と皮膚感覚受容器について理解すること 2. 先端的研究に欠かせない分子生物学の現状とその鍼灸医学分野への応用の可能性について理解すること 3. 鍼灸領域で重要な治療対象となる筋の発生機序について分子生物学的立場から理解する。 【機能学領域】 1. 体表刺激と体性神経機能との関係について理解すること 2. 体表刺激と消化・代謝機能との関係について理解すること 3. 体表刺激と循環・生体調節機能との関係について考えること 【免疫学領域】 1. 生体の基本構成・血液系細胞・循環系について理解すること 2. 生体防御系・炎症・アレルギーについて理解すること 3. 生体防御系の調節系について考えること 【基礎鍼灸学領域】 1. 東洋医学の基本的な整体観、病因、臓腑や経脈について理解すること 2. 経脈理論について理解すること 3. 形態学的、機能学的にみた経絡、ツボについて理解すること 4. 鍼灸臨床における安全性について理解すること 5. 舌診の診断的有効性について理解すること	
授 業 計 画		
日程	概 要	備考 (授業時間外学習の指示等)
1	[授業概要(榎原1)] 皮膚の形態学的基礎①	学部時代の教科書に加え、牛木「入門組織学」(南江堂)と藤田・藤田・岩永「標準組織学 総論」および「各論」を復習。 各回、適宜配布資料あり。
	[到達目標(榎原 1)] 細胞・組織学的基礎を復習する。	
2	[授業概要(榎原2)] 皮膚の形態学的基礎②	同上
	[到達目標(榎原 2)] 皮膚組織の基本構造を把握し皮膚が複雑系の組織であることを理解する。	
3	[授業概要(榎原3)] 皮膚感覚受容の形態学①	同上
	[到達目標(榎原3)] 皮膚感覚受容器の定義を理解する。一次感覚神経細胞の細胞体の所在を把握する。	

4	[授業概要(榎原 4)] 皮膚感覚受容の形態学②	同上
	[到達目標(榎原4)] 皮膚感覚受容器と深部感覚受容器の形態的多様性を把握する。触覚受容器と痛覚受容器の形態的多様性を区別して理解する。	
5	[授業概要(榎原 5)] 神経機能形態学研究法① 末梢神経系のマクロ解剖学	解剖学研究室において実習予定
	[到達目標(榎原5)] 脊髄神経系のマクロ解剖を実習する。	
6	[授業概要(榎原 6)] 神経機能形態学研究法② 神経組織を可視化するための手法と実際	解剖学研究室において実習予定
	[到達目標(榎原6)] 神経を可視化するための基本的手法を理解する。組織標本作製・一般染色の基本を実習する。	
7	[授業概要(榎原 7)] 神経機能形態学研究法③ 単一神経細胞を可視化するための手法と実際	解剖学研究室において実習予定
	[到達目標(榎原7)] 単一ニューロンを可視化するための基本的手法を理解する。顕微鏡観察と形態学解析法を実習する。	
8	[授業概要(榎原 8)] まとめ	
	[到達目標(榎原8)]	
9	[授業概要(川喜田 1)] 体表刺激で興奮する体性感覚受容器	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田1)] 各種受容器の特徴を理解させる。	
10	[授業概要(川喜田 2)] ポリモーダル受容器の構造と機能	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田2)] ポリモーダル受容器の持つ役割について理解させる。	
11	[授業概要(川喜田 3)] 体性感覚刺激でおこる筋緊張緩和作用	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田3)] 筋緊張の調節機構を理解させる。	
12	[授業概要(川喜田 4)] 体性感覚刺激でおこる鎮痛作用	関連資料および論文の読解
	[到達目標(川喜田4)] 内因性鎮痛機構を理解させる。	
13	[授業概要(林 1)] 消化・吸収機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林1)] 消化・吸収機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	

1 4	[授業概要(林 2)] 代謝機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林2)] 代謝機能の内、特にエネルギー代謝機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
1 5	[授業概要(林 3)] 循環機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林3)] 循環機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
1 6	[授業概要(林 4)] ストレスに対する生体調節機能と体表刺激について	関連資料および論文の読解
	[到達目標(林4)] ストレスに対する生体調節機能の内、特に内分泌機能を理解した上で、体表刺激によるその機能の変化を考える。	
1 7	[授業概要(千葉 1)] 生体を構成する分子の特徴	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標 (千葉1)]生体構成分子の特徴を理解する。	
1 8	[授業概要(千葉 2)] 幹細胞：再生と修復	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(千葉2)]幹細胞の特性・創傷治癒について理解する。	
1 9	[授業概要(糸井 1)] 生体防御反応	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井1)]自然免疫と獲得免疫を理解する。	
2 0	[授業概要(糸井 2)] 炎症とアレルギー	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井2)] 生体内危険分子・外来抗原への反応を理解する。	
2 1	[授業概要(糸井 3)] 免疫寛容と自己免疫疾患	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井3)] 自己寛容の形成と自己免疫疾患の発症機序を理解する。	
2 2	[授業概要(糸井 4)] がんと免疫	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(糸井4)] がんによる免疫系の抑制とがん免疫療法について理解する。	
2 3	[授業概要(千葉 3)] 細胞の接着と移動の制御	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(千葉 3)] 免疫系細胞の局所への移動について理解する。	
2 4	[授業概要(千葉 4)] 細胞内シグナルの制御	テキストおよび参考文献による予習および講義内容のまとめと配布資料による復習
	[到達目標(千葉 4)] 免疫細胞における細胞内シグナル制御ー受容体刺激から転写調節へーを理解する	

2 5	[授業概要(廣 1)] 東洋医学の古典検索方法を学ぶ。	インターネットや図書館において、実際に古典文献の検索を行う
	[到達目標(廣 1)] 古典検索の方法を説明できる。	
2 6	[授業概要(廣 2)] 東洋医学の古典の基礎的な読み方を学ぶ。	『黄帝内経』(『素問』上古天真論篇 01 など) を読む
	[到達目標(廣 2)] 古典の基礎的な読み方を説明できる。	
2 7	[授業概要(角谷 1)] 形態学的、機能学的にみた経絡について	体性刺激の伝導路とその特徴について見直して復習しておく。
	[到達目標(角谷1)] 経絡を基礎医学的に捉えて理解することができる。	
2 8	[授業概要(角谷 2)] 形態学的、機能学的にみたツボについて	体性刺激の伝導路とその特徴について見直して復習しておく。
	[到達目標(角谷2)] 診察点であり治療点であるツボを基礎医学的に捉えて理解することができる。	
2 9	[授業概要(廣 3)] 鍼灸臨床における感染防止対策について	鍼灸医療ガイドラインの感染防止対策について簡潔にまとめる。
	[到達目標(廣3)] 現状の鍼灸臨床における感染防止対策について理解する。	
3 0	[授業概要(鶴 1)] 鍼灸臨床における医療過誤(事故)、副作用、インシデント(ヒヤリハット)などについて	鍼灸医療安全ガイドラインなどに目を通しておく。
	[到達目標(鶴1)] 鍼灸臨床における医療過誤(事故)、副作用、インシデント(ヒヤリハット)などについて理解する。予防策などについて理解する。	
3 1	[授業概要(和辻 1)] 東洋医学の診察法、舌診の特徴・基本的診察法について学習する。	「新しい鍼灸診療」(p. 26～29)を読み理解を深める。
	[到達目標(和辻1)] 東洋医学の診察法の概要、舌診の特徴や基本的診察法、正常な舌所見などが説明できる。	
3 2	[授業概要(和辻 2)] 舌診の基本的診察法・臨床応用について学習する。	「新しい鍼灸診療」(p. 29～39)を読み理解を深める。
	[到達目標(和辻2)] 舌診の基本的診察項目が説明できる。また舌診所見と病証との関係や予後判断が理解できる。	
テキスト(配布資料)		免疫学領域 Essential 細胞生物学 原書第 4 版 中村桂子・松原謙一 監訳、南江堂 シンプル免疫学(改訂第 5 版) 中島泉、高橋利忠、吉開泰信、南江堂

	他にプリント配布 基礎鍼灸学領域 新しい鍼灸診療, 北出利勝編集, 医歯薬出版社, 2006 形態学・機能学領域については適宜指示する。
参 考 文 献	免疫学領域 もっとよくわかる！免疫学 河本宏、羊土社 カラー図解・免疫、感染症と炎症性疾患における免疫応答 笹月健彦監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル 基礎鍼灸学領域 1. 臨床経穴ポケットガイド 361 穴, 医歯薬出版, 篠原昭二 2. ビギナーズ鍼灸 HARI なび, ヒューマンワールド, 篠原昭二 3. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル, 尾崎昭弘著, 医歯薬出版, 2003 4. 鍼灸臨床の科学, 西條一止, 熊澤孝朗監修, 医歯薬出版, 2000 5. 東洋医学を学ぶ人のために, 高木健太郎他監修, 医学書院, 1984 6. 鍼灸医療安全ガイドライン, 尾崎昭弘・坂本歩他編, 医歯薬出版, 2006
評 価 方 法	課題に対するレポートにより評価する。 免疫学領域「鍼灸刺激が生体防御系調節に関与し得る作用とそのメカニズムについて」
その他(アドバイス等)	領域毎に随時、適当な文献を紹介する。

授 業 科 目 名	臨床鍼灸医学					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	◎廣 正基 福田文彦、苗村建慈、廣 正基 糸井 恵、小藤和孝、高羽夏樹、伊藤和憲、田口玲奈 谷口剛志、鶴 浩幸、吉田行宏、山崎 翼					
テ ー マ	自立した研究者を育成するため、現代西洋医学の各診療科および鍼灸臨床の専門分野において、最新の知見について学習し、臨床鍼灸医学の研究におけるベースとなる知見を理解する。					
授 業 の 概 要	現代西洋医学の各診療科の分野における鍼灸臨床の対象となる可能性がある、あるいは有効なものを取り上げ、ガイドライン、診断法、治療法及び評価法などについて、最新の現代医学及び鍼灸医学の臨床に関する知見を教授する。また、鍼灸臨床の応用分野(スポーツ、予防・未病医療、高齢者医療)における意義と役割について教授する。 【内科系領域】 (福田文彦／1 回) うつ状態(病)における予防及び治療及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (福田文彦／1 回) 肥満及び糖尿病の基礎知識及び鍼灸治療に関する最新の知見について教授する。 (福田文彦／1 回) 消化器・代謝系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (福田文彦／1 回) 呼吸器疾患と鍼灸治療について、最新の知見を教授する。 (苗村建慈／1 回) 呼吸器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (苗村建慈 1 回) 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (廣 正基／1 回) 生活習慣病である高血圧症に対する鍼灸治療について、最近の知見を教授する。 【外科系領域・整形外科系領域】 (糸井 恵／1 回) 整形外科系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (小藤和孝／1 回) 整形外科系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。					

	(高羽夏樹／1回) 泌尿器科疾患(主として神経因性膀胱)における診断と治療について、最新の知見を教授する。 (伊藤和憲／2回) 上肢の痛みと筋痛疾患及び下肢の痛みと筋痛疾患について、最新の知見を教授する。 (伊藤和憲／2回) 急性痛・慢性痛の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (田口玲奈／2回) 産科領域と婦人科(特に月経困難症)の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 【応用鍼灸系領域】 (鶴 浩幸／1回) めまい・耳鳴に関する最新の知見について教授する。 (廣 正基／1回) 生活習慣病である高血圧症について、鍼灸臨床の応用について、特に血圧管理の観点から最近の知見を教授する。 (山崎 翼／1回) 未病医学における鍼灸臨床の応用、特に産業医学の観点から最近の知見を教授する。 (吉田行宏／1回) コンデショニングに関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。 (吉田行宏／1回) スポーツ鍼灸について最新の知見について教授する。 (谷口剛志／1回) 海外におけるスポーツ鍼灸事情の最新の知見について教授する。 (谷口剛志／1回) スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。
視 点 (ね ら い)	【内科系領域】 1. 内科系疾患及び症状(1部精神疾患を含む)において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること 【外科系、整形外科系領域】 1. 外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること 2. 整形外科疾患及び症状において、鍼灸臨床の治療対象、あるいは有効なエビデンスのあるものについて、ガイドライン、診断法、治療法、評価法などに関する新しい知見を理解すること 【応用鍼灸系領域】 1. スポーツ分野、予防・未病医学分野、高齢者医療分野における病態、予防・治療法及び鍼灸臨床の意義と役割について理解すること

授 業 計 画		
日程	概 要	備考（授業時間外学習の指示等）
1	[授業概要(福田1)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について解説する。	うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握については、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(福田1)] うつ状態(病)における西洋医学的診察、病態把握、治療及び鍼灸臨床について理解する。	
2	[授業概要(福田2)] 肥満・糖尿病における鍼灸治療の役割について教授する。	
	[到達目標(福田2)] 肥満・糖尿病における鍼灸治療の役割について説明できる。	
3	[授業概要(福田3)] 消化管疾患と鍼灸について教授する。	
	[到達目標(福田3)] 消化管疾患と鍼灸について説明できる。	
4	[授業概要(福田4)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について教授する。	
	[到達目標(福田4)] 呼吸器疾患と鍼灸治療について説明できる。	
5	[授業概要(廣1)] 生活習慣病である高血圧症について日本の高血圧ガイドラインについて教授するとともに、血圧に及ぼす鍼灸刺激の最近の知見について教授する。	
	[到達目標(廣1)] 生活習慣病である高血圧症について日本の高血圧ガイドラインについて説明できるとともに、血圧に及ぼす鍼灸刺激の最近の知見について説明できる。	
6	[授業概要(苗村1)] 気管支喘息の診断と治療	呼吸器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(苗村1)] 気管支喘息の、現代医学からみた、病因、症状、診断、治療について理解する。	
7	[授業概要(苗村2)] 循環器系疾患における診断と治療について、最新の知見を教授する。	循環器疾患の診断及び治療について、指定参考書等を参照しつつ各自勉強してください。
	[到達目標(苗村2)] 循環器疾患の終末期像である心不全の疫学、病態および治療指針と予後について理解できる。	
8	[授業概要(糸井恵1)] 関節疾患（変形性関節症など）の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	関節疾患の基礎知識については参考書を利用して適宜補ってください。
	[到達目標(糸井恵1)] 関節疾患の病態	

	に関する最新の知見について理解する。	
9	[授業概要(小藤1)] 腰椎疾患（椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症など）の西洋医学的病態に関する診断と治療に関して最新の知見について解説する。	教科書を読んで、腰椎疾患の西洋医学におけるガイドラインを理解する（診察法・診断法・治療法について）。
	[到達目標(小藤1)] 脊椎疾患の病態に関する最新の知見について理解する。	
10	[授業概要(高羽1)] 泌尿器疾患（主として下部尿路症状）の診断・治療および鍼灸治療について、最新の知見を教授する。	講義スライドで出てくる用語については、参考資料を適宜参照しつつ理解し説明できるようにしてください。
	[到達目標(高羽1)] 泌尿器科疾患（主として下部尿路症状）の診断・治療および鍼灸治療の役割について説明できる	
11	[授業概要(伊藤1)] 急性痛に対する鍼灸治療の最新の知見を解説する。	鍼灸理論の内容を復習しておいてください。
	[到達目標(伊藤1)] 急性痛の病態や治療方法を解説すると共に、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識（病態把握や治療法）について理解する。	
12	[授業概要(伊藤2)] 慢性痛の病態や治療方法を解説すると共に、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識（病態把握や治療法）について教授する。	鍼灸理論の内容を復習しておいてください。
	[到達目標(伊藤2)] 慢性痛の病態や治療方法を解説すると共に、鍼灸治療を行う際に必要と思われる知識（病態把握や治療法）について理解する。	
13	[授業概要(伊藤3)] 上肢の痛みと筋痛疾患について解説する。	
	[到達目標(伊藤3)] 上肢の痛みと筋痛疾患について理解する。	
14	[授業概要(伊藤4)] 下肢の痛みと筋痛疾患について解説する。	
	[到達目標(伊藤4)] 下肢の痛みと筋痛疾患について理解する。	
15	[授業概要(田口1)] 産科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	
	[到達目標(田口1)] 産科疾患の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。	

1 6	[授業概要(田口2)]	
	[到達目標(田口2)]	
1 7	[授業概要(鶴1)] 耳鳴・めまい	関連文献(学術論文)になどに目を通しておく。
	[到達目標(鶴1)] 耳鳴・めまいのメカニズム及びその鍼治療について理解する。	
1 8	[授業概要(廣1)] 生活習慣病である高血圧症の鍼灸臨床の応用について教授する。	
	[到達目標(廣1)] 生活習慣病である高血圧症の鍼灸臨床の応用について説明できる。	
1 9	[授業概要(山崎)] 労働者の健康状況や健康問題についてふれ、それに対する鍼灸治療の有用性について紹介する。	関連文献(学術論文)による予習と復習をする。
	[到達目標(山崎)] 労働者の健康管理を目的とした、産業領域における鍼灸治療の実践について知識をえる。	
2 0	[授業概要(吉田)] コンデショニングに関する鍼灸治療を教授する。	
	[到達目標(吉田)] スポーツ分野における傷害の予防や治療方法(鍼灸治療の役割も含む)を理解する。	
2 1	[授業概要(吉田)] スポーツ鍼灸について最新の知見について教授する。	
	[到達目標(吉田)] スポーツ鍼灸について最新の知見について理解する。	
2 2	[授業概要(谷口1)] 海外におけるスポーツ鍼灸について教授する。	
	[到達目標(谷口1)] 海外におけるスポーツ鍼灸について理解する。	
2 3	[授業概要(谷口2)] スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について教授する。	
	[到達目標(谷口2)] スポーツ傷害の病態に関する最新の知見と予防・治療法及び鍼灸臨床の可能性も含めた最新の知見について理解する。	
テキスト(配付資料)		『図解 鍼灸療法技術ガイド1・2』矢野忠他編著 文光堂 2010 ※自主購入とする
参考文献		1. 内科学第7版: 杉本恒明ほか編, 朝倉書店, 2009 2. 新臨床内科学第9版: 高久史磨ほか編, 医学書院, 2009 3. 鍼灸学臨床編: 天津中医薬大学ほか編, 東洋学術出版社, 1993

	4. 標準外科学：北島政樹編集, 医学書院, 2010 5. 標準整形外科学：中村利孝編集, 医学書院, 2008 6. 図解整形外科学診断ガイド：露口雄一他著, 文光堂, 1996 7. 整形外科テスト法：斉藤明議監訳. 医道の日本, 1995 8. 排尿障害のすべて：渡邊決著 医薬ジャーナル社, 1998 9. よくわかる排尿トラブルの対処法：三木恒治・中尾昌宏編, 昭和堂, 2008 10. 新耳鼻咽喉科学：切替一郎著, 南山堂（株）, 1998 11. 現代の眼科学（改訂第9版）：所 敬, 吉田晃敏編著, 金原出版, 2006
評価方法	課題に対するレポートにより評価する。
その他（アドバイス等）	全日本鍼灸学会雑誌参考。随時、参考文献・資料を指示・推薦する。

授 業 科 目 名	教育学概論					
単 位 数 等	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数
授 業 担 当 者	◎ 河井正隆、廣 正基					
テ ー マ	教育学の理解とそれに必要な知識の学修					
授 業 の 概 要	教育学について、理療教育学を中心として学習し、その内容について理解する。特に、①理療教育の序論、②教育方法、③教材の作成と評価、④教育実習、⑤教育心理、⑥発達、⑦特別支援教育、⑧児童心理などについて理解を深め、教育学の基礎的内容について理解する。					
視 点 （ ね ら い ）	1. 教育学の基礎的内容について理解する 2. 理療教育について必要な知識 3. 教育方法や評価について理解すること 4. 教育心理や児童心理などについて考えること					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要] 理療教育学 序説（河井 1） [到達目標] 理療科教育に関する基礎的内容について理解する。			関連論文および資料などの読解		
2	[授業概要] 教育方法と技術のとらえ方（河井 2） [到達目標] 教育方法とその技術について、基礎的な内容を理解する。			関連論文および資料などの読解		
3	[授業概要] 教材の作成と教育評価（河井 3） [到達目標] 教材の作成方法とその教育評価について、実際の方法に基づいて学習し、理解する。			関連論文および資料などの読解		
4	[授業概要] 教育実習（概論）（河井 4） [到達目標] 教育実習の概論について学習する。			関連論文および資料などの読解		
5	[授業概要] 教育心理学とこころの構造（廣 5） [到達目標] 教育心理学とこころの構造について基礎的内容を理解する。			関連論文および資料などの読解		
6	[授業概要] さまざまな発達（廣 6） [到達目標] 発達に関する基礎的内容について理解する。			関連論文および資料などの読解		
7	[授業概要] 特別支援教育（廣 7） [到達目標] 特別支援教育について基礎的な内容を学習し、理解する。			関連論文および資料などの読解		

8	[授業概要] 児童期・思春期・青年期の問題（廣 8） [到達目標] 不登校やストレス、いじめなどを含めた諸問題を含めて、各時期の問題について学習し、理解する。	関連論文および資料などの読解
テキスト（配付資料）	配布資料及び 吉川恵士（監修）：理療教育学 序説, ジアース教育新社, 2015.	
参 考 文 献	特になし	
評 価 方 法	出席や授業態度、実習態度、授業での積極的な姿勢（発言など）などによって総合的に評価する（60 点以上を合格とする）。	
その他（アドバイス等）	教育時事に即して授業テーマ（概要）を変更する場合があります。	

授 業 科 目 名	鍼灸医学特論					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年前期
授 業 担 当 者	◎角谷英治、伊藤和憲、川喜田健司、齊藤昌久、宮坂卓治					
テ ー マ	最新の基礎研究におけるトピックス、特に鍼灸医学と関連するテーマを取りあげ、基礎医学研究の成果とその意義について考える。					
授 業 の 概 要	（概要）現代医学における基礎研究の最新のトピックスを取りあげ、どのような研究が注目され、研究対象とされているかについて医学情報を紹介し、最新の基礎医学研究の成果とその解釈（考察）について教授する。 （川喜田健司／1回）痛みに関する最新の知見として、痛みのメカニズムと内因性鎮痛システムなどについて教授する。（トリガーポイントの発現機序を含む） （伊藤和憲／1回）痛みのメカニズムと内因性鎮痛系に関し最新の知見について教授する。 （角谷英治／4回）鍼灸刺激と鎮痛系に関する概要と最新の知見として、鍼・灸刺激の鎮痛効果とその作用機序などについて教授する。 （齊藤昌久／1回）「現代社会における運動」について「動くべきか？動かないべきか？」「運動と疾病」の観点から深掘りする。 （宮坂卓治／1回）鍼灸学研究に必要な運動制御機構の基本と、筋電図計測法の種類とそれぞれの意義をについて教授する。					
視 点 （ ね ら い ）	1. 痛みと鎮痛に関する最新の知見について理解すること 2. 体性自律神経反射の最新の知見について理解すること 3. 最新の基礎医学研究の進歩について考えること					
授 業 計 画						
日程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要(川喜田1)] トリガーポイントの成因と鎮痛機序			関連論文および資料の読解		
	[到達目標(川喜田1)] トリガーポイントの成因と内因性鎮痛系への関与を理解する					
2	[授業概要(伊藤1)] 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系に関し最新の知見について					
	[到達目標(伊藤1)] 痛みのメカニズムと内因性鎮痛系に関し理解できる。					
3	[授業概要(角谷1)] 鍼鎮痛の概要			鍼灸刺激の特性と内因性鎮痛について予習する。		
	[到達目標(角谷1)] 鍼鎮痛の概要について理解できる。					
4	[授業概要(角谷2)] 上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛			上行性痛覚抑制系と末梢性鎮痛に関する		

	[到達目標(角谷2)] 鍼鎮痛における上行性痛覚抑制と末梢性鎮痛の関与の可能性について理解できる	る論文を読み、簡単にまとめる。
5	[授業概要(角谷3)] 鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムについて	鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムに関する論文を読み、簡潔にまとめる。
	[到達目標(角谷3)] 鍼灸刺激による筋循環改善のメカニズムに関する最新の知見について理解する	
6	[授業概要(角谷4)] 鍼灸刺激による身体反応について	
	[到達目標(角谷4)] 鍼灸刺激による身体反応に関する最新の知見について理解する。	
7	[授業概要(齊藤1)] 現代社会における運動	ヒトは休むようにできているのか？それとも歩いたり走ったりするようにできているのか？ 身体不活動の影響、などの知識・考えをまとめておく。
	[到達目標(齊藤1)] 身体活動は疾病予防等に役立つ運動処方(運動の量、種類)について最新の知見が説明できる。	
8	[授業概要(宮坂1)] 鍼灸学研究に必要な運動制御機構の基本と、筋電図計測法の種類について	
	[到達目標(宮坂1)] 鍼灸学研究に必要な運動制御機構の基本と、筋電図計測法の種類とそれぞれの意義を理解する	
テキスト(配付資料)		参考文献を参照
参 考 文 献		1. トリガーポイント鍼療法, 川喜田健司監訳, 医道の日本社, 1995 2. 痛みのメカニズム, 横田敏勝, 南江堂, 1997 3. 鍼灸臨床の科学 4. 体性-自律神経反射の生理学, 佐藤昭夫/佐藤優子/R. F. シュミット 山口眞二郎, シュプリンガー・ジャパン, 2007
評 価 方 法		課題に対するレポートにより評価する。
その他(アドバイス等)		随時、適当な文献を紹介する。

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	医学古典に関する研究、東洋医学の理論に関する研究、経絡経穴現象に関する研究、四診法の客観化に関する研究などに関する研究法を教授する。					
視 点 (ね ら い)	1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること。 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える。					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	具体的な研究計画を作成して報告 (プレゼン) し、評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	糸井マナミ、角谷英治					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸基礎医学分野における研究課題(安全性を含む)、特にヒトを対象とした研究法について教授する。					
視 点 (ね ら い)	1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、福田文彦					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野における研究課題、特にヒトを対象とした研究法について教授する。					
視 点 (ね ら い)	1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える					
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	健康予防医学研究法					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	講義	授業年次	1 年通年
授 業 担 当 者	廣 正基					
テ ー マ	研究課題と関連する研究法(研究デザイン、測定法、評価法など)、特にヒトを対象とした研究法について理解する					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス分野(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3分野)におけるヒトを対象とした臨床的な研究課題に関する研究法を教授する。					
視 点 (ね ら い)	1. 研究課題に関連する研究デザインについて理解すること 2. 研究課題に関連する測定法や評価法を理解すること 3. 研究計画を作成できること 4. データを統計処理できること 5. 研究課題に関する全体の研究計画について考える					
テキスト(配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他(アドバイス等)						

授 業 科 目 名	伝統鍼灸学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2年
授 業 担 当 者	和辻 直					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	より高度な東洋医学の診断法・治療法と日本で独自に発展してきた伝統医学の診断・治療法、さらに古医書や古典医学文献、東洋医学の理論などの諸問題について教授・研究する。					
視 点 （ ね ら い ）	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
テキスト（配付資料）	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	研究成果を報告（プレゼン）し、評価する。					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	鍼灸基礎医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	糸井マナミ、角谷英治					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸刺激および刺鍼手技・施灸手技などの作用機序に関する研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)及び鍼灸の安全性について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	鍼灸臨床医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	伊藤和憲、福田文彦					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	鍼灸臨床医学分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	健康予防医学演習					
単 位 数 等	単位数	4 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	廣 正基					
テ ー マ	修士論文のテーマに則した課題を設定し、関連する学術論文を中心に研究の現状と研究成果を把握し、研究の意義及び価値とオリジナリティーについて理解する。					
授 業 の 概 要	ヘルスサイエンス(「スポーツ」、「予防・未病・養生」、「高齢者」の3つの領域)の分野におけるヒトを対象とした臨床的な研究論文の諸問題(研究目的、研究方法、結果、考察など)について教授・研究する。					
視 点 (ね ら い)	1. 修士論文のテーマに関する研究の現状と問題点について理解すること 2. 修士論文のテーマに関する研究成果について理解すること 3. 修士論文の意義と価値及びオリジナリティーについて理解すること					
テキスト (配付資料)	各自の研究テーマより指示する。					
参 考 文 献	各自の研究テーマより指示する。					
評 価 方 法	課題に対するレポートとプレゼンテーションにより評価する。					
その他 (アドバイス等)						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ					
単 位 数 等	単位数	1 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、糸井マナミ、角谷英治、伊藤和憲、福田文彦、廣 正基					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 （ ね ら い ）	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ					
単 位 数 等	単位数	5 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、糸井マナミ、角谷英治、伊藤和憲、福田文彦、廣 正基					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 （ ね ら い ）	各研究指導教員の指示による。					
テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。					
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。					
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。					
その他（アドバイス等）						

授 業 科 目 名	特別研究Ⅲ					
単 位 数 等	単位数	2 単位	授業形態	演習	授業年次	1・2 年
授 業 担 当 者	和辻 直、糸井マナミ、角谷英治、伊藤和憲、福田文彦、廣 正基					
テ ー マ	各研究指導教員の指示による。					
授 業 の 概 要	「特別研究」では、専攻分野に応じた研究課題を設定し、課題については、選択した授業科目との関連性を踏まえ、研究指導教員との面談により決定する。鍼灸医学の客観化、科学化の発展に寄与できるような研究を指向するため、特別研究を行うにあたっては、通信教育としての特性から、あらかじめ、研究指導予定教員との十分な面談の上、より具体的な研究課題を決定し、研究を進める。					
視 点 （ ね ら い ）	各研究指導教員の指示による。					
日 程	概 要			備考（授業時間外学習の指示等）		
1	[授業概要]研究指導					
2	[授業概要]研究指導					
3	[授業概要]研究指導					
4	[授業概要]研究指導					
5	[授業概要]研究指導					
6	[授業概要]研究指導					
7	[授業概要]研究指導					
8	[授業概要]研究指導					
9	[授業概要]研究指導					
10	[授業概要]研究指導					
11	[授業概要]研究指導					
12	[授業概要]研究指導					
13	[授業概要]研究指導					
14	[授業概要]研究指導					
15	[授業概要]中間発表					
16	[授業概要]研究指導					
17	[授業概要]研究指導					
18	[授業概要]研究指導					
19	[授業概要]研究指導					
20	[授業概要]研究指導					
21	[授業概要]研究指導					
22	[授業概要]研究指導					
23	[授業概要]研究指導					
24	[授業概要]研究指導					
25	[授業概要]研究指導					
26	[授業概要]研究指導					
27	[授業概要]研究指導					
28	[授業概要]研究指導					
29	[授業概要]研究指導					
30	[授業概要]中間発表					

テ キ ス ト	各研究指導教員の指示による。
参 考 文 献	各研究指導教員の指示による。
評 価 方 法	論文とプレゼンテーションにより評価する。
その他（アドバイス等）	

授 業 科 目 名	医療機関実習					
単 位 数 等	単位数	単位数等	単位数	単位数等	単位数	単位数等
授 業 担 当 者	伊藤和憲、和辻直、廣正基、齊藤真吾、田口玲奈、谷口剛志、 田口辰樹、吉田行宏、山崎翼					
テ ー マ	各担当教員の指示による。					
授 業 の 概 要	附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院 mythos361、きららの湯若狭鍼灸院、附属病院などにて、担当教員の指導のもと臨床実習を行う。					
視 点 （ ね ら い ）	臨床実習を通して、西洋医学的な知識を身につけるとともに、鍼灸医学における臨床能力を育成する。					
テ キ ス ト	各担当教員の指示による。					
参 考 文 献	各担当教員の指示による。					
評 価 方 法	臨床実習に関する出席によって評価する。					
その他（アドバイス等）						